

今年も3階展示スペース裏の震災資料を燻蒸しました!



震災資料はさまざまな性質の資料が混在しているため、すべての資料に適合的な温湿度として、温度20度前後、湿度40~50%前後で、年間を通じて維持する必要があります。

温度については、7階収蔵庫は夏期を除いて、20度前後でおおむね安定するようになっています。しかし、湿度については、通年で20~80%前後と変動が激しく、湿度管理のさらなる改善が必要です。また、3階展示裏の収蔵スペースについては、閉館時間は空調がストップしているため、温湿度管理が不可能な状態でした。

そこで、平成25年度から、7階収蔵庫に家庭用除湿器を5台設置し、湿度が高くなる夏から秋にかけて稼働させるとともに、3階展示裏の収蔵スペースの保存箱667箱の内側に、湿度を安定させるための調湿紙の貼付を進め、平成28年度に作業を完了しました。

しかし、毎年行っている環境調査では、文化財害虫やカビが検出されています。そのため、平成29年度から資料室では、年1回、3階展示裏の収蔵スペースの保存箱667箱に文化財害虫に対する防虫・忌避効果のある薬剤を散布することにしました。

今年も2月に薬剤散布を行いました。

7階収蔵庫扉にドアブラシをつけました!



7階収蔵庫は屋上と接しており、毎年文化財害虫が検出されています。大型の昆虫も侵入しており、対策が必要でした。

そこで、資料室では7階第1、第2収蔵庫の扉に文化財用のドアブラシを設置することにしました。これによって、文化財害虫や昆虫の侵入を大幅に減らすことができます。

今後も資料室では震災資料の保存と活用に取り組んでいきます!

震災資料をお持ちの方に

人と防災未来センターでは、現在も震災資料の収集を続けています。「こんなものでいいのかな?」と、おっしゃる方もなかにはいらっしゃいます。寄贈できるか分からないとお考えの方や、震災後、すぐには手放せなかったものの、**震災の出来事を伝えるために活用したい**とお考えの方など、悩んだ際には、**ぜひ一度、資料室までご相談ください。**



(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター 資料室
The Great Hanshin-Awaji Earthquake Memorial
Disaster Reduction and Human Renovation Institute

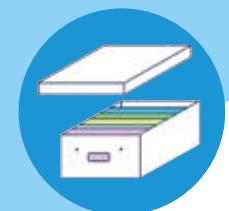
〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 人と防災未来センター西館5階
TEL.078-262-5058 FAX.078-262-5062 URL <http://www.dri.ne.jp>
開室時間/9:30~17:30(展示施設とは時間が異なりますのでご注意ください)
閉室日/毎週月曜日(月曜日が祝日又は振替休日の場合は翌平日)
12月29日から1月3日

資料室は
無料でご利用
いただけます



阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター

The Great Hanshin-Awaji Earthquake Memorial
Disaster Reduction and Human Renovation Institute



Vol.68
2019年3月発行

資料室ニュース

今年も、資料室では企画展を行いました。

開催期間は、平成30年12月18日(火)~平成31年3月3日(日)まで開催しました。

企画展を見に、たくさんの方が足を運んでくださいました。ありがとうございました!

平成30年度 資料室企画展 業界紙・専門誌に見る プロフェッショナルたちの阪神・淡路大震災

私たちの日々の生活を支えているのは、各業界に従事するプロの方々です。ひとつの商品を取り上げても、その開発から商品化・販売までの各プロセスにそれぞれ従事するプロがいます。どれかひとつでも欠けてしまえば、その商品を消費者が使うことはできなくなってしまいます。

プロたちは独自の技術や視点を持ち、それらを駆使して日々の業務にあたっています。災害からの復旧・復興過程では、そうしたプロならではの技術や視点が活躍してきました。

これらの取り組みを詳しく紹介しているものとして、各業界が発行する雑誌や新聞があります。通常の書籍と比べると即時性の強い雑誌や新聞には、その時期その時期のプロの方々の活躍が掲載されています。資料室では様々な業界の業界紙や専門誌を所蔵しています。登録・管理をする資料室スタッフにとっては、比較的馴染みのある存在ですが、一般の利用者の方にはあまり知られていません。

この興味深い存在である業界紙や専門誌を是非皆さまにご紹介したいという思いから、今回の企画展が誕生しました。



まだまだあるよ! 業界紙・専門誌

企画展開催にあたって、1995年発行の新聞・雑誌がどれだけあるのかを確認しました。雑誌は1月末現在で約2万点収蔵しているうち3,100点1,331タイトル、新聞は約400点のうち92点29タイトルが1995年発行でした。この中には一般紙や総合誌もあるため、タイトルや発行者から専門的なものを選別。そこから更にプロの活躍を紹介したものを選び、今回紹介の38タイトルを決定しました。比較的馴染みがあるとはいえ、我々スタッフも全ての業界紙を把握できていたわけではありません。特に既に廃刊している雑誌については、「こんな雑誌があるのか…」という驚きを感じながらの選別作業になりました。

また、展示パネルには記事の紹介とともに関連する写真も掲載しました。紹介しきれなかった業界紙・専門誌の一部は「まだまだあるよ!業界紙・専門誌」と名付けたコーナーに設置しました。60タイトルほど置きましたが、これでも全数にはほど遠い数です。「こういう業界の新聞や雑誌はないか」というお問い合わせは是非スタッフまで。

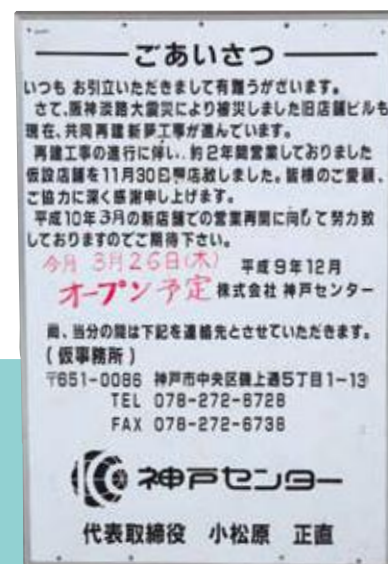


今回展示した業界紙・専門誌は、 全て二次資料として登録されている刊行物です。

資料室では、被災の状況を表すものや、復旧・復興の過程でできたり使われたりしたものを一次資料として管理しています。一次資料の中にも、プロフェッショナルたちの活躍を物語るものがあります。

神戸を本拠地としていたプロ野球の球団オリックス・ブルーウェーブ（現オリックス・バファローズ）は、スローガン「がんばろうKOBE」のワッペンを縫い付けたユニフォームを着用して試合に臨み、見事リーグ優勝を果たしました。

「がんばろうKOBE」のワッペンを縫い付けたユニフォーム
■資料番号:3400171-001006、3400171-001007



三宮センター街の雑貨店神戸センターは建物全壊、仮設店舗での営業を余儀なくされました。店主の小松原さんは商店街組合の役員としてアーケードの再建に奔走しつつ、約2年間の仮設店舗営業を経て平成10年3月に新店舗での営業を始めました。

■資料室には仮設店舗閉店の告知看板（資料番号:3500247-001001）や仮設店舗の様子を写した写真（資料番号:3500247-001015）などが寄贈されています。

消防博物館の企画展に 資料の貸し出しを行いました!

2019年1月8日(火)~2月3日(日)のあいだ行われた消防博物館(東京都新宿区)の企画展「防災とボランティア週間展」に資料室所蔵の資料の貸し出しを行いました。

今回の企画は、人と防災未来センターの巡回展示の一環として行われ、阪神・淡路大震災から24年を経て、震災の記憶を風化させず、日頃からの災害への備えを呼びかけるものです。



展示では、阪神・淡路大震災の被害や復旧・復興までを写真やデータで振り返るグラフィックパネル展示、タッチパネルモニターによる閲覧コーナー、震災発生時の状況を伝える災害映像「5:46の衝撃」ダイジェスト版等の映像上映などが行われました。資料室からは、①日めくりカレンダー、②全壊家屋の下敷きとなり壊れたアンティークカメラ、③地震で壊れた目覚まし時計、④火災で溶けたガラス食器、⑤火災で溶けた硬貨の計5点を貸し出しました。

新着資料 紹介

新たな資料の
寄贈がありました。
その一部を
紹介します。

「はやくふとんでねたいな」

●後藤 勝徳さん

宝塚市の逆瀬台小学校は、震災でグラウンドの石垣が大きく崩れるなど甚大な被害を受けました。授業が再開したのは、震災から14日目の1月30日。これは宝塚市ではもっとも遅いものでした。子どもたちの生活も深刻で、授業再開から1週間経っても児童の1割以上が登校できなかったと記録されています(宝塚市教育委員会「阪神・淡路大震災ノ宝塚の記録」,1996)。

そんな逆瀬台小学校の6年3組では、担任の後藤勝徳先生の指導のもとで、学級詩集「早くふとんでねたい〜阪神大震災を忘れない〜」を製作しました。完成したのは2月20日のことです。詩集の表題となったのは、玉野桂子さんの詩です。それから19年後の2014年、この詩に歌が付けられてよみがえりました。歌っているのは、当時のクラスメイトで、現在はプロのアーティストとして活躍している中路明美さん。6年3組の仲間たちは、今なお温かい交流を重ねていたのです。たまたま資料室を訪れた後藤先生がこのことを語ってくださり、今回、歌のデータと楽譜を寄贈いただくこととなりました。

■資料番号:0000518-000001~000002

「81時間後の生存者関連資料」

●嶋田 明さん

2019年1月17日、嶋田明さんが資料を持参して来館されました。

嶋田さんは、震災当時伊丹市消防局東消防署に勤務する消防官で、1月17日は当直の責任者でした。地震発生翌18日は消火隊として、19日から21日までは救助隊として芦屋市に応援出動していました。20日には芦屋市親王塚町へ生き埋めになったマンション管理人夫婦の救助のために出動し、同じマンションに住む女性医師の援助を受けながら、地震発生から81時間ぶりに女性1人を救助。残念ながら夫である男性は亡くなりましたが、かなりの長時間が経過してからの生存者としてその後も言及される事例となりました。2015年には救助された女性を取材した新聞記者から連絡を受け、後遺症と闘いながらご夫君の最期の言葉を励みに懸命に生きていることを知らされました。

嶋田さん寄贈の資料は6点。親王塚町での救助事例に言及した新聞の一部や雑誌、伊丹市職員の応援活動の体験文集のコピーです。

■資料番号:0000521-000001~000006



「アマチュア無線による救援活動の報告」

●志磨 弘章さん

志磨さんは、趣味でアマチュア無線をしておられて、お仕事も無線通信機の販売を大阪でしておられます。

阪神・淡路大震災の際に、無線通信を持ち、日本赤十字を通じて救援活動をされ、その際の活動状況(1月17日から1月31日まで)の記録を寄贈してくださいました。

記録には、当時の混乱した様子が記録されています。例えば、日赤に入荷している救援物資と、実際に避難所にいる被災者からのニーズが合わず、困っている方の要求を満たせないというやりきれない気持ちなども書かれています。

志磨さんは、「今後の災害対策に少しでも役立ててもらえたら」と資料を寄贈してくださいました。

■資料番号:0000522-000001

DRI

The Great Hanshin-Awaji Earthquake Memorial
Disaster Reduction and Human Renovation Institution